

日本将棋連盟の公式モバイル向け対局観戦アプリ「将棋連盟ライブ中継」に9月から、AI(人工知能)予測による対局中の形勢判断が加わった。新機能を担うのは、岡山県立大情報工学部の芝世武助教



芝世武助教

教(48)らが開発した将棋ソフト。初心者も勝負の行方を追いやすく、ファン拡大が期待される。芝助教は「将棋界盛り上げの一助になれば」としている。

(小谷章浩)

岡山県立大・芝助教ら開発ソフト

将棋の形勢 AI 判断



里見香奈倉敷藤花が、挑戦者の加藤桃子清麗を破った11月の第29期大山名人杯倉敷藤花戦3局目の中継画面。終盤に差し掛かったあたりの形勢判断は、里見倉敷藤花が61%で優位に立っている

連盟アプリ 機能追加 1手ごと予測、グラフ化

アプリではタイトル戦や一般棋戦など女性将棋も含めたプロ対局を毎日3〜7局ほど中継し、過去の対局も700局以上見ることが出来る。2010年に運用を開始し、藤井聡太四冠(19)がデビューから無敗で29連勝を樹立した17年には、利用者が急増したという。

形勢判断は各対局者名に添えて数値で示され、対局開始のほぼ50%ずつから、1手ごとに変化する。手番の棋士が疑問手、懸手などを放てば数値が下がり、相手が上がる仕組みだ。さらにメカニクスやシステムを構築した。将棋の評価値は動画配信サービスやテレビ放送でも扱われ、自ら指すよりも観戦が中心の「観る将」という新しいファン層の開拓にもつながった。日本将棋連盟は「情勢が一目で分かるれば、より多くの人に楽しんでもらえるはず」と期待する。芝助教は「AIの信頼度が上がったことで将棋を多角的に捉えることが可能になった。今後将棋の魅力を引き出せるような研究を続けたい」と話している。